

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

5月中旬、施設を充
実させた伊那市中央の
伊那スタジアムで開催
された女子ソフトボー
ル日本リーグ1部の公
式戦を観戦する。県内

でのリーグ公式戦は8年ぶり。競技に取り組む県内の子供達の姿も目立ち熱戦を楽しんだ。

昨年8月に国際オリンピック委員会の総会で、野球・ソフトボールが2020年東京オリンピックの追加種目に正式に決定。2018年に千葉県で開催が決定されている「第16回世界女子選手権大会」と東京オリンピックの「成功と世界一奪還」での金メダル獲得に盛り上がるソフトボール競技。2020年以降もオリンピック競技として継続できるよう、設立50周年を迎

えた日本ソフトボール協会が企画する、リーグ戦の運営方法。従前の20会場を30会場に増やす取り組みで長野県内の身近な観戦の機会となった。「世界最高峰」と言われる日本リーグ。半世紀にわた

ズの先発投手として観戦する。世界最高峰のプレーの醍醐味に魅了される。会場に集まった多くの関係者に、本物の素晴らしさが伝わった一時でもあった。地域の審判技術の向上を目的に、球審と

世界最高峰の競技プレーを子ども達に観戦させる大切さについて考えてみませんか

る歴史から日本を代表するトッププレーヤーが誕生。日本代表として世界の舞台で堂々と活躍する多くの日本の選手達やアメリカチャームで活躍するモニカ・アポット選手を下ヨタ自動車レッドテリアー

一審判員はリーグ認定審判員、それ以外の審判業務は、地元長野県ソフトボール協会が受け持つ。墨審を受け持つ顔見知りの審判員の緊張感が伝わってくる。観客スタンドは審判有資格者のメンバーも多く、同行したメンバーにソフトボールの独特なルールを説明する場面が続出。ダブルベース・離塁アウト・リエントリー(再出場・故意四球・テンポラリーランナー・20秒ルールなど…。観戦を

店には、冷たいものを買い求める観客で大にぎわいに。大勢の観衆が予想される中でも、駐車場の確保など気になる場面もあったが、(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上) 気。同じ長野県でも地域によって、こんなに受け取り方が違つかどうかとつらやましく感じた場面だった。



ソフトボール大好きと笑顔一杯の大勢の観衆で会場は盛り上がる。